

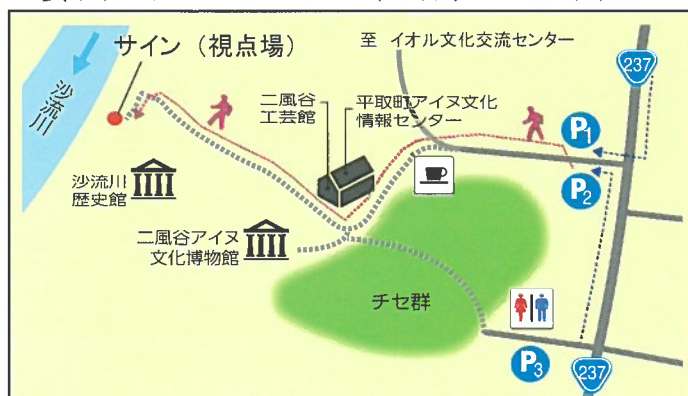


沙流川歴史館裏手の視点場から見たにぶたに湖と対岸の景観（南東側から撮影）

二風谷の森林とアイヌ文化振興 —文化的景観解説サインの紹介4—

にぶたに湖右岸の森林は、所有者による施業の結果、それぞれ異なった森林景観が見られます。視点場から右手（上流側）の国有林では、この地域の元々の植生である針広混交林が見られます。一方、左手（下流側）は、かつては民有林であり、皆伐施業が行われた結果、落葉広葉樹林となっています。その森は現在は「イオルの森」という町有林となり、アイヌ文化の伝承・継承に必要な自然素材を持続的に利用することができる森林を目指した森づくりの活動が行われています。視点場からは、アイヌの伝統文化を育んだ本来の植生が残る景観と、近代開拓以降の森林施業による景観を見ることができ、この地域らしい文化的景観がひろがっているといえます。

また、にぶたに湖右岸の山地は、切り立った露岩や崖地があり、ウカエロシキ（通称、クマの姿岩）やオプシヌプリ（通称、穴あき岩）といった伝承地も残されています。（山本 雄）

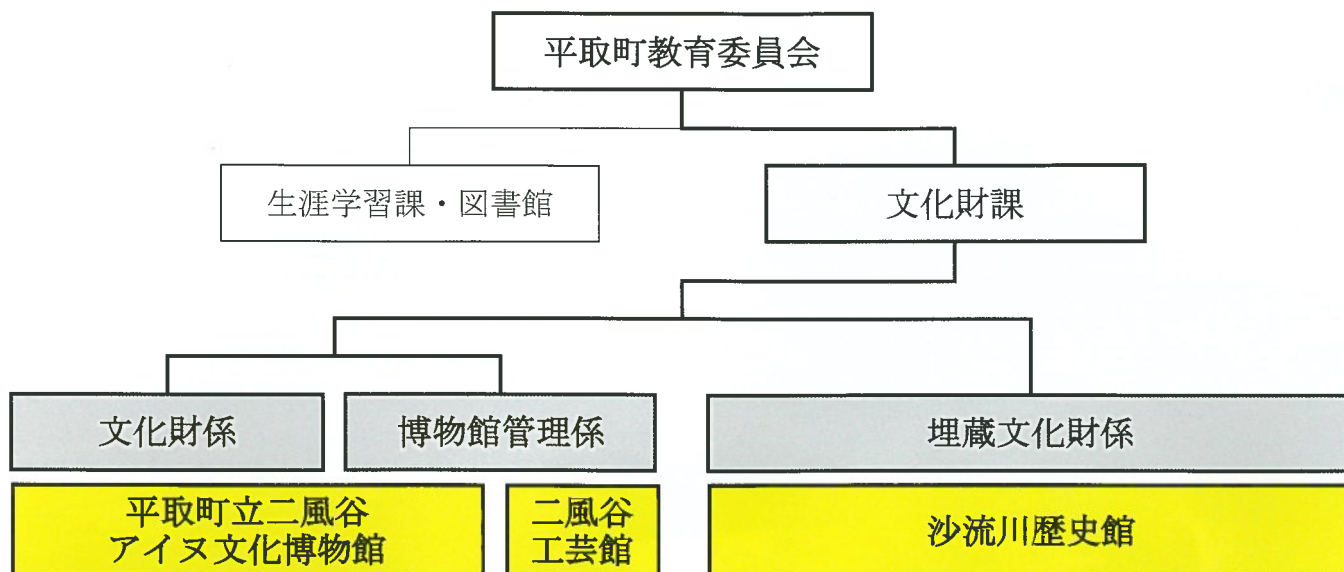


< 二風谷コタン >

二風谷コタンは平成31年に再整備されました。駐車場だったところは芝生となり、カフェ「アリキキ」（4月～10月営業）もできました。園路はチセ群を見ることができるよう配置されています。令和4年に完成したイオル文化交流センターは「イオルの森」の整備活用をはじめ、種々のアイヌ文化振興に取り組んでいる(株)平取町アイヌ文化振興公社の拠点施設です。二風谷アイヌ文化博物館は、町民の方は入館無料です。ぜひお越しください。

令和5年度文化財課職員体制

今年度の平取町教育委員会・文化財課の職員体制をお知らせします。



館長 長田 佳宏（文化財課長 / 学芸員）
主幹 阿部 正子（博物館管理係長）
係長 山本 雄（文化財係長 / 学芸員）
事務員

廣岡 絵美（文化財係 / 任期付職員 / 学芸員）
笠原 早百合（文化財係）
大塚 公美子（博物館管理係）
進藤 千賀子（二風谷工芸館）

館長 長田 佳宏（文化財課長 / 学芸員）
主幹 黒川 佳美（埋蔵文化財係長）
事務員

世良 昌也（任期付職員 / 学芸員）
久米 智江（埋蔵文化財係）
佐々木 知代（埋蔵文化財係）
坂本 エミ（埋蔵文化財係）

開拓財産展示施設一般公開（5/1～11/29）

公開期間中の月・水・金の午前中（祝祭日は休館）に開館しています。解説を希望される場合は博物館に問い合わせ願います。



★異動のお知らせ★ お世話になりました。

阿部孝之（主幹）…アイヌ施策推進課へ
鈴木正美（会計年度任用職員）
…生涯学習課管理係へ

（久米智江）

沙流川歴史館企画展のお知らせ

「ポロシリ登山の魅力」の開催について

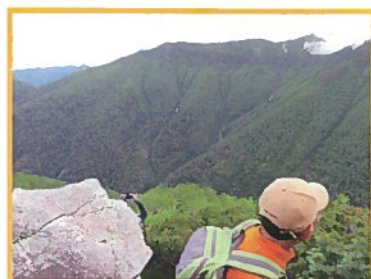
沙流川歴史館では、4月25日（火）から沙流川歴史館企画展示室にて、企画展『ポロシリ登山の魅力』を開催します。

山頂が平取町と新冠町の町域を分ける幌尻岳は、アイヌ語でポロシリ（大きい - 山）と呼ばれ、はるか昔からこの地に住む人々は畏敬の念を抱いて接してきました。

1961（昭和 36）年に「品格・歴史・個性」を兼ね備えた、標高1,500メートル以上の山（筑波山・開聞山を除く）として「日本百名山」に選ばれたことで、道内外からの登山客が増加しました。特に額平川^{としょう}の渡渉（川わたり）を有する平取ルートは難易度が最上位の登山道として全国に名を馳せます。

今回は雄大な自然や登山者の安全を守る平取町山岳会の取り組み、町民登山を通じた山登りの魅力を中心に展示します。

企画展のあとには移動展の開催も予定しています。近くて遠いポロシリ登山の魅力は是非ご観覧ください。（阿部孝之）



令和 4 (2022) 年度受贈民具

かいざわ みつお

貝澤貢男さん（1939-2022）はアイヌ文化研究者の萱野茂さん（1926-2006）の助手を務め、木彫の技術等を学びました。のちに工芸家として活躍するほか、職業訓練指導員（木材工芸科）や「21 世紀・アイヌ文化伝承の森プロジェクト」の常勤指導員として後進を育成しました。

令和4年 11 月に逝去され、翌年の1月にご遺族より貝澤さんが所有していた儀礼用具と着物が二風谷アイヌ文化博物館に寄贈されました。サパンペ（冠）とエムシ（刀）は男の手仕事と



▲男性正装衣を着用した貝澤さん。二風谷生活館にて。
写真提供：（株）平取町アイヌ文化振興公社

して氏が制作し、アットウシアミプ（厚司の着物）は女の手仕事として妹さんが生地を織り、親戚の女性が刺しゅうを施し着物に仕立てました。アットウシアミプの制作時期は平成9～13年頃です。これらはのぼりべつクマ牧場のユーカラの里（アイヌコタン）で働いていた時にコタンコロクル（村おさ）をつとめる際や、諸儀礼の際に身に付けられました。民具は現在、当館のモレウゾーン（造形の伝統）で展示しています。ぜひご覧ください。（廣岡絵美）

沙流川流域の野鳥たち No.6

スズメ目メジロ科

観察難易度：★★☆☆

メジロ

学名：Zosteropus Japonicus

英語名：Japanese White eye

漢字名：目白、^{めじろ}繡眼児

大きさ 全長 およそ 12 センチ
鳴き声 さえずり：“チチュルチチュルチーチー”
などと複雑な節回し。

地鳴き：“チーチー”と鋭い。

特徴 黄緑色と黄色が美しいスズメよりも小さな鳥。雄雌同色で、額から頭部、体上面は黄緑色。目の周りにある明瞭な白いアイリングが和名の由来。ノドは黄色で、胸から腹は汚白色。脇は紫褐色。雑食性で昆虫類、植物の実、樹液、花の蜜などを好み、舌が筆状になっている。

生息環境 日本では全国の平地から山地の林にすんでいる。留鳥または漂鳥として全国に生息し、北海道では夏鳥。最近では全道各地で観察される。冬季は平地や暖地に移動するため、秋には移動する個体の渡りが見られる。



メジロ



メジロ

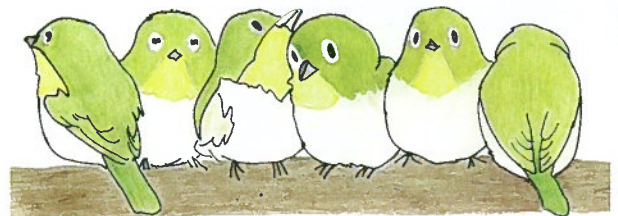
写真：太田裕子氏（新冠町）より寄贈

★ ^{めじろお}目白押し…語源と由来★

テレビなどでよく聞く目白押しという言葉。これは鳥のメジロのある習性が由来しています。“メジロ”は秋から冬になると、群れをなして押し合いへし合いの状態で木にとまる習性があります。これを「メジロの押し合い」と呼びます。やがて、メジロの押し合いを見て、子どもたちが真似をして遊びだした遊びを「目白押し」と呼ぶようになりました。そこから、人や物が込み合っている様子や、物事が集中してあることを表す慣用句として使われるようになりました。

まもなくゴールデンウィークが始まります。各地で楽しいイベントが目白押しとなりそうですね。

（鈴木正美）



アイヌ語を覚えてみよう ⑮

イランカラプテ！（こんにちは！）

今回は、我々の住む平取町と新冠町にまたがる日高山脈最高峰、幌尻岳（2,052m）の伝説についてお話しします。

幌尻の語源はアイヌ語の、ポロ（大きい）・シリ（山）で、いたって単純明快です。カムイヌプリ（神の山）とも呼ばれ、人々が足を踏み入れない神の領域、という意識が強かったようです。この山に付いては沙流川下流の伝承者、鳩沢ワテケさん（1890-1961）が語ったお話しが残っています。内容を要約すると次のようになります。

「平賀に住む男は神が住むと言われる幌尻に、いつか登ってみたい、神が住むところがどんなものなのか、いつか見てみたい、とずっと思っていました。自分の気持ちを抑えられず、とうとうある日、男はどんどん沙流川をさかのぼり、幌尻の麓まで来ました。そして身の安全を祈願したのち、山を登りはじめます。険しい山なので木を支えにするようにして登りました。山の上の方からは神の息吹なのか、強い風が吹き下り、今にも転がり落ちそうになります。しかし再度、祈りと共に御神酒を捧げ、這うように、木を支えに、自分自身を引っ張り上げるようにしながら、一心に登りました。中腹で野営し、翌日もさらに登り続けました。そして、とうとう山の上で見た光景はというと、上手の端も下手の端もかすんでしまって見えないくらい大きな沼があったのです。その沼の岸には大きな昆布がより上がっています。カモメなど海の鳥が群れていて、水の中にはカレイなど海の魚がたくさんいるようです。この情景に感嘆した男は、すでに自分が人間の世界ではなく神の世界に帰属してしまっていることを感じます。その後、反物の幅ほどもある大きな昆布を二つ三つ背負い、山を下りました。しかしその途中、昆布だと思って背負って来た荷物の束は、長い、どくろを巻いた何匹ものへびに変身し、荷物からモゾモゾ這い出してきたのです。そして、とうとう何もなくなってしまいました。村に戻った男が村人たちに山の上での体験を語ると、人々はその話にただただ驚くばかりでした。男はその後、二、三年は生きたのですが、病気にかかり、人生のなかばで亡くなってしまいます。山の上で感じた通り、男の魂は神の領域に行ったので、先祖のところには行かず、先祖供養をしても供え物を受け取ることが出来ないということです。」

実際に幌尻岳の山頂近くには、七つ沼カールと呼ばれる沼が存在するので、この話との関連性がとても気になるところです。やはり昔は幌尻岳のような高い奥山は神の領域という認識が強く、登山の対象ではなかったのでしょうか。



ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）

（生涯学習課 関根健司）

※この伝承の引用元は6Pの「平賀の長老の話」で紹介しています。

沙流のアイヌ伝承からみたポロシリと登山への想い

ー名勝ピッカノカ(国文化財) 「幌尻岳(ポロシリ)」の紹介ー



写真：ポロシリの登山道から北カールと山頂方面を望む(2016年7月 船越光次氏撮影・提供)。アイヌの物語や伝承、祈りの場、言語に彩られた優秀な景勝地として、平成25年10月17日に「幌尻岳(ポロシリ)」として名勝ピッカノカに追加指定された

日高山脈の最高峰であるポロシリは日本百名山の最難関とされる標高 2,052m の山で、その魅力は何といってもアイヌ伝承の神秘性、山頂付近のカール地形や貴重な動植物などです。

沙流に受け継がれるポロシリへの敬いは、同じエカシイキリ(祖父の系統)に属する人々による「パセオンカミ」(位の高い神への祈り)に見出すことができます。沙流川と額平川の二股から上流側に所在するほとんどのコタンは、ほとんどの家系でポロシリをパセオンカミにもちます。ただし、川上のコタンであるポロサルはポロシリを崇拝する家系がある一方で、そうでない家系もあるとされています。また、ペナコリと二風谷もポロサルと同様の傾向があります。平取を含む下流側のコタンは、上流のコタンに祖元をもつ家系以外はポロシリをパセオンカミの祭神にすることはないと伝えられています。

地域住民が文芸世界で想い描くポロシリは、様々な語りの中で創造されます。ポロシルンカムイの妹が登場して悪神を退治するという神謡や、ポロシルンカムイと人文神アイヌラックルが妻とする女神を巡って争う散文説話などにより、幻想的なストーリーが展開されます。

沙流の散文説話である「平賀の長者の話」は、沙流川下流域に住む男がポロシリに行き着いたという語りです。この男は、登山後二、三年後に病気で死んでしまうという最期を迎えます。この語りの中では神の世界への敬いのほか、人がむやみに行くべきところではないという教訓が表現されているとみられます。レジャー登山全盛の今日において、ポロシリに関心をもつ我々が感じ取るべき教えであろうと考えられます。(長田佳宏)

「平賀の長者の話」閲覧方法

- ①早稲田大学リポジトリ
- ②Institute of Language Teaching
(語学教育研究所)1962-2004
- ③Learning Materials(教材等)
- ④アイヌ語音声資料02
- ⑤ワテケさんの昔話
:沙流方言:民話06
- ⑥A02-006.mp3(音源)
02-08.pdf(テキスト)

イギリスのジャパンハウス派遣事業①

アイヌ政策推進交付金事業

アイヌ政策推進交付金の事業のひとつに、イギリスのジャパンハウス派遣事業があります。令和元年度から打合せや構想を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症により延期となり、しばらく空白となっていました。新型コロナウイルス感染症の世界的な状況の緩和があり、来年度の開催に向け動き出し始めたところです。

「ジャパンハウス」とは、外務省が世界3都市に設置した拠点施設であり、幅広い層に向けて日本の魅力を発信しています。ロンドンの他に、サンパウロ、ロサンゼルスに設置されています。

令和元年、ジャパンハウスロンドンから、アイヌ文化を発信するための企画展を実施するにあたり、連携協力の提案がありました。平取とイギリスは歴史的にも関係があり、イギリスにおいてアイヌ文化を発信することは、アイヌ施策推進法に基づく国のアイヌ施策の基本方針に合致し平取町にとっても文化振興に寄与するとの考えから、アイヌ政策推進交付金でこの事業を行い、ジャパンハウスロンドンの企画展に協力していくこととなりました。

今回は、企画展や関連イベントの検討内容、令和4年度に行ったイギリス出張の様子などについてご紹介する予定です。

(山本 雄)



ジャパンハウスロンドンの外観 (© Japan House London)



ジャパンハウスロンドンの内観 (© Japan House London)

平取町とイギリスの関わり①

イザベラ・バード（イギリス、ヨークシャー出身）は、明治11（1878）年に日本を訪れ、横浜から東北、北海道へと旅をしています。平取を最終目的地とし、ペンリウクのもとを訪れ数日間ペンリウク宅に滞在しました。バードが記述した『日本奥地紀行』（イギリスでの初版は1880年）は旅行者としての視点からさまざまな記述を残しており、当時の北海道、平取を知る上でとても貴重な記録です。

平成25（2013）年に二風谷イタと二風谷アットゥシが、伝統的工芸品に指定されました。伝統的工芸品に指定されるための要件の一つに、100年以上の歴史を有する、というものがあり、その歴史性の根拠となるものの一つとして、バードが記述した記録も用いられました。

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■国際博物館記念事業

ICOM（国際博物館会議）では、5月18日を「国際博物館の日」としています。記念事業の一環として、無料開館および記念品の贈呈を行います。ぜひご来館ください。

日時：5月21日（日）9:00～16:30

対象：19人以下の個人

■博物館めぐりバス見学会

日時：7月23日（日）8:00～19:00

行先：むかわ町穂別ほか

定員：30名（予定）



撮影日：2022/4/28

カタクリ（ユリ科）
アイヌ語名：エシケリムリム
カタクリの花言葉は「初恋」
カタクリの花が下向きに咲く姿が、恥ずかしくて気持ちを伝えられない初恋の乙女をイメージさせることからつけられたそうです。カタクリは4月下旬頃が見頃なので観賞されてはいかがでしょうか。

（坂本エミ）

沙流川歴史館

■企画展

『ポロシリ登山の魅力』

期間：4月25日（火）～5月28日（日）

場所：沙流川歴史館企画展示室

休館日：毎週月曜日

※5月1日は開館します

■移動展

◇貫気別支所

期間：5月29日（月）～6月11日（日）

◇振内町民センター

期間：6月12日（月）～6月25日（日）

◇ふれあいセンターびらとり

期間：6月26日（月）～7月9日（日）

◇ノカピライウオロビジターセンター

（平取ダム管理支所）

期間：7月10日（月）～7月23日（日）（予定）

※休館日は各施設で異なります。

2023年4月

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

2023年5月

日	月	火	水	木	金	土
30	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

2023年6月

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

2023年7月

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

● 歴史館 休館日 ■ 歴史館 企画展 ★ アイヌ文化博物館は毎日開館しています（4月16日～11月15日）

シシリムカ文化財だより No. 18

2023年4月21日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/hibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中！



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中！

